The Leader in Me

リーダー・イン・ミー

「7つの習慣」で子どもたちの
価値と可能性を引き出す！

スティーブン・R・コヴィー／ショーン・コヴィー
ミュリエル・サマーズ／デイビッド・K・ハッチ 著
フランクリン・コヴィー・ジャパン 訳

キングベアー出版

二〇〇九年の『子どもたちに「7つの習慣」を』（『The Leader in Me』）発刊から約五年。

その間、「リーダー・イン・ミー」のプログラムは約二〇〇〇を超える小学校に導入されました。子どもたちへのリーダーシップ教育は世界中に広がり、子どもたちの価値と可能性を引き出しています。

そして今、日本においてもリーダーシップ教育を広げるために、『子どもたちに「7つの習慣」を』を大幅に刷新し『リーダー・イン・ミー』としてお届けします。

Simon & Schuster Paperbacks
A Division of Simon & Schuster, Inc.
1230 Avenue of the Americas
New York, NY 10020

Copyright © 2008, 2014 by FranklinCovey Co.

All rights reserved, including the right to reproduce this book or portions thereof in any form whatsoever. For information address Simon & Schuster Subsidiary Rights Department, 1230 Avenue of the Americas, New York, NY 10020.

First Simon & Schuster trade paperback edition August 2014

SIMON & SCHUSTER PAPERBACKS and colophon
are registered trademarks of Simon & Schuster, Inc.

For information about special discounts for bulk purchases,
please contact Simon & Schuster Special Sales at
1-866-506-1949 or business@simonandschuster.com.

本書を推薦します

『7つの習慣』シリーズを、世界中の子どもたちの教科書とし、すべての大人の必読書にしたなら、私たちは輝かしい未来を手に入れることができるだろう。人生のゴールとは自分で創るもの。そして、その幸せを追い求めるプロセスこそが充実した人生と言えるのだ。本書を通じて一人でも多くの子どもたちの未来が輝くことを祈る。

明治大学大学院教授　野田 稔

これからの「よのなか」の生き方に、親や先生はモデルにならない。正解はないのだから、まず思い思いに自分でやってみて修正していくしかないでしょう。大事なのは、友だちだけじゃなく、異なる考え方の人ともWin-Winのネットワークを築くこと。『リーダー・イン・ミー』は、そのためのセルフマネジメントを教える新時代の道徳のプログラムだ。

教育改革実践家・元杉並区立和田中学校校長　藤原和博

成功している人がみんな同じような道をたどったわけではありません。学ぶペースも、それぞれの得手不得手もさまざまです。実りある人生を送った人たちに共通点があるとすれば、むしろ通り一遍でない、個性的な人たちだったということでしょう。「7つの習慣」のプログラムによって、一人ひとりが自分自身の人生のリーダーになっていただきたい。

女優・国連開発計画親善大使　紺野美沙子

過去と他人は変えられないけど、自分と未来は変えられるのだ。あなたの夢は何だろう？　人生は夢に向かって行く過程こそが、もっとも楽しいし幸せなのだ。夢は見るものじゃなくて叶えるもの。「7つの習慣」を、あなたの夢が実現した世界に向かうパスポートにしよう！

ブリキのおもちゃ博物館館長　北原照久

地球環境、エネルギー、安全保障、少子高齢化、IT社会の進展といったさまざまな分野における急速かつ重大な変化を鑑みれば、現代は少なくとも過去の延長線上に単純に未来が来るような時代ではなくなっている。そんな単純系から複雑系に、確実性から不確実性へと混迷の度を深める世の中を生き抜くには、不動の座標軸を持たねばならない。コヴィー博士が人類の叡智を結晶させた『7つの習慣』シリーズを一生涯にわたる思考と行動の原点にしていただきたい。

千葉商科大学教授・学部長　宮崎 緑

本書を賞賛する人々

教育界の有力者たちからの言葉

教育は、子どもたち一人ひとりの能力を育み、生きていく力を身につけさせるためにあるのです。教育が画一化されると、子どもたちの真の才能に気づいてやれず、彼らの創造性や好奇心、知識欲の芽を摘んでしまうことになります。子どもたちの成長を助けようと思ったら、彼らは何を成し遂げる能力があるのか、彼らにとって真に必要な学校とはどのようなものなのか、我々は根底から考え直さなければなりません。『リーダー・イン・ミー』にはその実践法が豊富に例示されていて、意欲をかき立てられます。子どもたち、そして教師たちの真の能力に関する刺激的な発想に根づいた変革プロセスを示してくれます。その裏づけとなっているのは、「リーダー・イン・ミー」を活用して急激かつ積極的な変革を成し遂げた、世界各地の学校の実践的経験です。教育の変革に必要なリーダーシップは学校の外にあるのではなく、学校の内部、特に子どもたち自身にあることをこの本は教えてくれます。

ケン・ロビンソン卿（国際的な能力開発・教育アドバイザー。著書に『才能を引き出すエレメントの法則』祥伝社などがある）

『リーダー・イン・ミー』は、我が国で現在もっとも定着している取り組みの一つであり、実に素晴らしいものです。内容が魅力的で、この手法の原則や期待されるメリットがわかりやすく説明されています。教育に関心のある人々の、まさに必読の書といえるでしょう。

ダニエル・ピンク（『To Sell Is Human and Drive』の著者）

学校が変われば、我々の将来も変わります。子どもの頃に教養と自制心、礼儀を身につけた人間は、大人になってもそれらを持ち続けるものです。砂が石を磨くように、学校での体験は子どもたちそれぞれが内に秘めている輝きを引き出します。『リーダー・イン・ミー』の根底に流れているのは、より良き世界という考え方と、我々をそこへと誘ってくれる包括的な折り紙つきの原則です。「学習をすべての人に」という使命の実現に努力しておられる教育界のリーダーたち全員に、私はこのフレームワークを強く勧めたいと思います。

ローレンス・W・レゾッテ（卓越した学校コンサルタント）

米国における学校教育の衰退を食い止め、反転させようと思うなら、すべての子どもたちに優れた教育を保証するための方法を考え直す必要があります。子どもたちがそれぞれの潜在能力を発揮し、アメリカンドリームの実現を目指すためには、人格が不可欠です。それを伸ばしてあげるために学校は何をすべきか、この本はその方法の具体例を紹介しつつ、何が可能かを教育者たちに示してくれます。

ジェフリー・カナダ（ハーレム・チルドレンズ・ゾーンの社長兼CEO）

フリーダム・ライターズと私はフリーダム・ライターズ基金を創設しました。その目標はただ一つ、それぞれの児童や生徒、それぞれの教師、それぞれのクラス、それぞれの学校を変えることによって世の中を変えるというものです。「リーダー・イン・ミー」は、あらゆる学校が教育を通じて世界を変えるための理想的な青写真といえるでしょう。私は、この手法を導入された、情熱あふれる教師や革新的な校長先生たちにお会いすることができました。そして、私は児童たちに感銘を受けました。私のところへ堂々と歩み寄り、私の目をじっと見て握手し、「主体的になっているんです」と言ったのですから。私は彼らが「7つの習慣」を実践し、素晴らしい成果を上げるところを目の当たりにしました。そういうこの私も、目標に達成するために、自分の同僚たちやスタッフと一緒にこの実証済みの手法と「7つの習慣」を活用させていただいております。

エリン・グルーウェル（教師／フリーダム・ライターズ基金創設者）

学校を元気にさせるための外部からの努力は実を結びませんでした。多くの学校は成功の秘訣を切望しています。学習を有意義で楽しいものにするという、共通の目標に向けて教師、児童や生徒、親、地域社会を団結させるものは、地元の学校の中で築かれた結合力のある文化です。本書『リーダー・イン・ミー』は、どうしたら学校は魂と精神を取り戻すことができるか、実績や証言を交えて強烈に語りかけてきます。

テレンス・ディール（作家）

『リーダー・イン・ミー』は、学校それぞれの変革を通じて世界中の子どもたちの人生を変えるその手法を解いています。子どもは皆、人生において成功し、自ら設定した目標を実現する潜在能力と価値を秘めているのです。自分を奮い立たせ、信頼してくれる教師がいれば、子どもたちは、学校だけでなく、その後の長い人生においても自分がリーダーになれることを自覚するようになるものです。まさに注目すべき一冊、優れた手法といえます。

ロン・クラーク（ロン・クラーク・アカデミーの創設者／教師）

システム全体の真の改善のために敢えて厳しいプロセスを断行しようという方に、私は『リーダー・イン・ミー』をお勧めします。この手法を適切に実行している学校では、児童や生徒がその推進役を担っています。その結果、子どもたちは自信を深め、規律の問題も解消されつつあるようです。

ジャン＝クロード・ブリザード（ワシントンDC大学入試センター上級顧問）

今日の子どもたちが明日の社会を担うリーダーになる、と私は信じています。明るく、より良い未来を創造し得るリーダーに育ってもらわなければなりません。そのための手法として、『リーダー・イン・ミー』はきわめて有効だと思います。私たちの学校、地域社会、そして未来を望ましい方向へと変革するリーダーを育成するための本であり、手法であり、道筋です。

ジョン・ゴードン（ベストセラー書『The Energy Bus』および『The Energy Bus for Kids』の著者）

『リーダー・イン・ミー』は、現代のリーダーが実践すべきと我々が考える原則を解説し、その模範を示しています。そうした特質を子どもの頃に習得できれば、成功の評価尺度として真に重要なのは何かを理解した大人になれるのです。

クレイトン・クリステンセン（ハーバード・ビジネス・スクール教授。『イノベーションのジレンマ』『イノベーション・オブ・ライフ』等の著者）

子どもたちは大抵、高い期待に応えてくれます。その期待がその子ども個人に関わるものであればなおさらです。全国学力テストの点数が学校の最終目的と化している観がある今日、子どもたちが自分の潜在能力を発見し、自らの将来ビジョンを描き、責任を持った生き方をし、友だちと協力して問題を解決し、適切な意思決定をするのに、この『リーダー・イン・ミー』がきっと役立つでしょう。学習は魅力的な行為であり、その質を高める努力が学習の幅を拡げ、かつ学習者の能力を引き上げるということを再確認させてくれるからです。この手法が提唱する成功の習慣――ある意味では学習成果を上げるための情緒的、環境的要素である――は、学校の学習内容にシームレスに統合され、より大きな目的と意味合いをその内容にもたらしてくれます。

キャロル・アン・トムリンスン教育博士／ウィリアム・クレイ・パリッシュ教授（バージニア大学カリー教育大学院）

『リーダー・イン・ミー』は学校の文化を、諦めの文化から、どの子も潜在能力を備え、学校で有意義な学習体験ができるという希望と信念の文化へと変革します。そうした変化を、私はあちこちの学校で目撃してきました。

ジェイコブ・クラウ（デンマークのレゴ・エデュケーション社長）

教育者たちは、今日の学校が抱えている課題に対処すべく、懸命に努力されています。教育に情熱を燃やし、児童や生徒たちの成長に心底取り組んでおられます。しかし、それは教育者だけでできることではありません。『リーダー・イン・ミー』は、児童や生徒の自主性や自己規律を尊重することによって、自らの学習と成功に責任を持たせるという考え方のもと、そうした強力な文化の構築を目指す学校や教育者を後押しするものです。この手法を採用して成果を上げている学校が世界に広がりつつあります。児童や生徒たちが自力で二一世紀リーダーへと成長していく姿は、実に頼もしい限りです。

ダニエル・ドメネク博士（全米学校管理者協会、学区教育長協会専務理事）

『リーダー・イン・ミー』には、何よりも効果的なツールである彼ら自身の自己価値を児童や生徒たちに認識させることにより、不登校や社会的無視の連鎖を断ち切る力があります。これを実践している学校では、子どもたちが自分自身の人生だけでなく、社会的にも独自性を発揮できるような指導を行っています。

リサ・フェン（マサチューセッツ州ボストン在住ジャーナリスト）

「リーダー・イン・ミー」を他に先駆けて導入したのは、ノースカロライナ州のある学校です。児童たちに何をしてやれるか、模索を重ねた末の結論であり、我々の管轄下にある学校で試みられている刺激的な取り組みの際たるものです。従来の学校では見られなかった新たな手法が、ミュリエル・サマーズとショーン・コヴィーの手によって生み出されたのです。そこでは、自分の基本的価値観を見つめ直したうえで、子どもたちの価値観を育むことが求められます。我々は教育者、特にマグネット・スクール（訳注：米国公立学校の一種で、魅力的な特別カリキュラムを持つため、広範囲の地域から子どもたちをマグネットのように引き付けるという意味）の教育者として、児童一人ひとりが無限の可能性を秘めていることをはっきり認識しています。『リーダー・イン・ミー』は、児童たちを引き込み、サポートし、素晴らしい機会へと誘う道筋を示してくれています。子どもたちは皆、自分の潜在能力を発揮する方法はもとより、自分はどういう人間であり、何が自分にとって大切かを自然と気づく能力を養う方法を習得することが肝要です。我が国の将来はこうしたリーダーたちの肩にかかっており、明日のために必要とされるリーダーを鼓舞し、訓練することが、我々教育者の使命といえます。『リーダー・イン・ミー』は、教室の中だけでなく、さまざまな場面への応用が可能です。そういう私自身も子を持つ親であり、彼らの成長の指針となる貴重なヒントを授かりました。

スコット・トーマス（全米マグネット・スクール協会専務理事）

『リーダー・イン・ミー』は思慮深い的を射た内容で、とても有用な実に素晴らしい本です。実際の学校の実績、体験談、実例、写真が魅力的に配され、それらを通じて中核となる考えが提示されています。地域の子ども一人ひとりを大切に育てたいと願う学校の、まさに必読書です。

ケント・D・ピーターソン博士（ウィスコンシン大学マディソン校名誉教授）

私自身、ABコームス小学校を訪問した際、非常にしっかりした児童たちの出迎えとインタビューを受けてびっくりしました。予測不能な将来を生き抜く力を子どもたちに習得させるべく、学校は「リーダー・イン・ミー」や「7つの習慣」をどのように活用すべきか、この学校が素晴らしい模範を示してくれています。この本は、すべての児童や生徒、すべての職員が偉大さを秘めており、この手法を通じてその偉大さを実感できることを証明しています。

ジェフ・ジョーンズ（ソリューション・ツリーCEO）

何千という児童と長年関わってきた結果、今日の教育の無言の教えに私は気づきました。それは、「言われたことをやり、試験では良い成績をとり、外部の人間の判定を仰ぐ」というものです。自分独自の世の中への貢献の仕方は論文や筆記試験では十分に評価してもらえず、せっかく才能がありながら埋もれている子どもたちをずっと見てきました。『リーダー・イン・ミー』は、学校内に従来にない文化を創造します。正しいと思うことを自分で見きわめて実行すること、自信を持ち、他者にも自信を持たせること、自分の中にすでに存在する偉大さを認識し、伸ばすことを児童や職員たちに求めるのです。おそらくもっとも重要な点は、児童一人ひとりが手にできるような報酬が生み出されることでしょう。

結局、『リーダー・イン・ミー』の素晴らしさをもっとも実感できるのは、この手法で飛躍を遂げた子どもたちを目の前にしたときです。他の子たちとは明らかに違うんです。「リーダー・イン・ミー」実践校で私が目にするような、自信や情熱にあふれる子どもは、世界中他では見られません。私は以前ある実践校で学ぶ一人の男子児童に、「君の将来の夢は何?」と尋ねました。すると、その子はにっこり微笑みながら、自信たっぷりに答えました。「大きな仕事をしたいです」と。あなたの学校の文化にも「リーダー・イン・ミー」を組み込んでみてはいかがでしょうか。きっと「大きな仕事」をしてくれることでしょう。

ドリュー・ダドリー（ニュアンス・リーダーシップ社創立者／チーフカタリスト）

二〇〇七年にABコームス小学校を訪問した際、私はすぐに感じました。何かが違う、と。教育界に身を投じて以降、私はレゴ・エデュケーションを代表して数々の学校を訪れましたが、二年生の子に迎えられたのはこのときが初めてでした。この女子児童は自己紹介をしたあと、私に歓迎の言葉を述べ、訪問の目的を尋ね、サマーズ校長のところに案内すると言ってくれました。私はすっかり感心してしまいました。この学校、サマーズ校長とその教職員、そしてそれ以上に重要な要素として児童たちが反復的、安定的に成し遂げてきた成果について説明を受ける中で、スティーブン・R・コヴィー博士の「7つの習慣」を独自の方法で導入していることを知りました。博士のこの習慣は私もよく知っていました。

なぜなら、働き始めて間もなく、私のリーダーシップツール、スキルセット、考え方に加えていたからです。その習慣がこのように全校的に導入され、この児童もその中で指導を受けてきたことを知った私は、自分がこれまでに得ていた情報に確信を抱きました。適切な文化から生まれる結果は、やはり適切なものになるのです。あなたの目標が子どもたちを二一世紀において貢献できる働き手に育てることであるなら、豊かなコンテンツ、二一世紀に通用するスキル、実践的学習、敬意とリーダーシップの文化が成功の鍵となります。「リーダー・イン・ミー」の手法は学校文化を変革する切り札であり、子どもたちに自由な想像力と学習、そして成功をもたらします。

スティーブン・ターニップシード（米国レゴ・エデュケーション名誉会長／戦略的パートナーシップ担当専務理事）

私は米国でも特に難しい学校の文化の変革に取り組む際、「リーダー・イン・ミー」を中核とする手法を用いています。コヴィー博士の計り知れないほどの遺産の一つは、世界中の子ども、教師、職員たちに向けて博士が発信し続けた、リーダーシップに関する感動的なメッセージでしょう。また、ショーン・コヴィーも、子どもたちのためのリーダーシップを強力に推進されています。真の学校改革をお望みであれば、『リーダー・イン・ミー』を読むしかないでしょう。

サロメ・トーマス-EL（数々の賞を獲得している教育家）

教師たちからの言葉

「リーダー・イン・ミー」は、自分の日々の行動や学習に対する責任を児童たちに持たせるものです。私が教育者として経験した中で、もっとも核心を突いたプロセスの一つといえます。おかげで我が校の文化が完全に変革され、素行の悪い児童も減少し、教職員、児童、親たちの参加意欲が増し、教科の成績も向上しました。

ジャン・マッカータン（ミシガン州ウォーターフォード、ボーモント小学校校長）

これは命を救うものです。

アンジー・タイロン（フロリダ州ポートシャーロット、ニールアームストロング小学校校長）

「主体的である」とか、「Win-Winを考える」といった習慣の意味を五歳の子どもでも理解していて、問題解決にリーダーシップ・ツールを活用しています。スクールバス内でのマナーの問題なども目に見えて改善されました。我が校の児童たちは私生活と学力の両面について目標を定め、計画を立ててそれらの達成に努力しています。目標を達成できたという満足感は測り知れないものがあります。児童たちは、私生活や学力の目標をクリアするたびに目標を引き上げています。子どもたちはもう、いじめなどはしなくなりました。教師、親、地域社会、そして児童の参加意欲がかつてないほど高まっています。

デボラ・ペヌル（ニュージャージー州ファーミングデール、アルデナ小学校校長）

ウィンチェスター小学校では「リーダー・イン・ミー」を導入して以来、読解力の標準テストの点数や宿題の履行率が向上しました。でも、それ以上に、児童たちが自信を深めたことが大きいと思います。以前は消極的だった児童たちが、失敗を恐れずにいろいろなことに主体的に取り組む姿勢が見られるようになりました。教職員についても、人生観が変わるほどの変化が起きています。親たちも、それぞれの家庭で習慣を実行してくれています。子どもたちにより良い人生を、と願っておられるすべての人々、自分自身も偉大さを身につけたいと思っているすべての人々にとって必要な教育の変革を実現するもの、それがこの手法であると私は確信しています。

キャシー・ブラクマン（ニューヨーク州ウエストセネカ、ウィンチェスター小学校校長）

我が校は創立日から「リーダー・イン・ミー」を導入しています。教職員や児童たちの間に信頼、結果責任、リーダーシップの文化を創造するという目的のもと、教職員に対する正規の研修と「７つの習慣」の教科への組み込みを連動させています。その甲斐あって我が校は、教育課のプログレスレポートに基づきニューヨーク市公立学区の最優秀校に指定されました。

ローズ・カー（ニューヨーク州スタテン・アイランド、ステートン・アイランド・スクール・オブ・シビック・リーダーシップ初代校長）

私たちの目的は、優れた学校をさらに優秀な学校へと変革することでした。過去に実施した取り組みは、短期的な効果はあったものの、児童たちの自己責任能力や学習に長期的な効果をもたらすことはありませんでした。「リーダー・イン・ミー」を導入してからというもの、親御さんたちがとても協力的になりました。すべてがうまくかみ合い、子どもの成長につながっていることを実感してくれています。教職員たちも、児童たちの人格と能力を最大限伸ばす前向きな手法だととらえています。

ジェニー・ウェラクソー（オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズ州グウィンビル、聖ブリジッド校校長）

我が校の児童は全員、何らかのリーダーです。私がやっているのではありません。先生方が児童たちと一緒に熱心にやってくださっているんです。

リサ・ヴァンリーウェン（カナダ、オンタリオ州ブラントフォード、ライアソン・ハイツ小学校校長）

システム全体を真に改善する綿密なプロセスを実行しようと思っておられる方すべてに、私は「リーダー・イン・ミー」を推奨します。適切に導入している学校では、子どもたちが諸活動を主体的に行うことで、自尊心が高まり、規律の問題が皆無もしくはかなり少なくなっています。

ジャン＝クロード・ブリザード（ワシントンＤＣ大学入試センター上級顧問）

この学校の理事の一人として、また一人の児童の親として、私は毎日共通の用語を耳にし、「７つの習慣」が実践されるのを目の当たりにしています。息子に「早く寝なさい！」とか、「ゲームは勉強してからよ！」などと言わなくても、「ママ、最優先事項を優先するのを忘れないでね」とか、「おじいちゃん、Ｗｉｎ-Ｗｉｎでいこうよ。おばあちゃんと喧嘩しないで！」などと向こうから言われてしまいます。「７つの習慣」と「リーダー・イン・ミー」は本当に凄いですね。

ジュノ・ディン・ホン（台湾・台北、リー・ジェン校理事／保護者）

私たちの最終的な目標は、子どもたちの生涯にわたってずっと寄り添って導くのではなく、自分で生きていける力をつけてあげることなのです。だとすれば、不変の原則を教えること以上に効果的な方法があるでしょうか。

ベス・シャープ博士（フロリダ州ファーンパーク、イングリッシュ・エステート小学校校長）

「リーダー・イン・ミー」の目的は関係の改善・構築にあります。それで、我が校の児童たちは特に目標設定プロセスを通じて自信を深め、より多くの成果を成し遂げています。先生方も非常に熱心に取り組んでくれております。親の参加意欲も増し、コミュニケーションが深まるにつれて共通の用語が増えました。これほどやり甲斐のある仕事は初めてです。

マット・ミラー（ミズーリ州マンチェスター、レン・ホロー小学校校長）

最初から子どもたちも教職員も、自分の長所を見つけるようにと促されました。もちろん、自慢するのはよくありませんが。教師たちは今では、お互いの才能や児童たちの才能をしっかり把握しています。このように良い面に意識を向けることは親たちからも喜ばれ、児童たちの成長に寄与しています。

カーラ・ルイクス（オランダ、アメルスフォールト、アトランティス校校長）

リーダーシップ・スキルや「7つの習慣」を教えることは、教師として、親として、妻としての私を変えてくれました。計画性が増し、物事の優先順位を考え、もっとも重要なことに意識を集中できるようになったのです。

パム・アーモンド（ノースカロライナ州ローリー、ABコームス小学校一学年担当教諭）

三五年前にこれがあったらなあ、とつくづく思います。

シャロン・ターウェルプ（イリノイ州クインシー、ブレスト・サクラメント小学校五学年担当教諭）

「リーダー・イン・ミー」は児童と教職員たちが団結し、協力し合う雰囲気を創り出すのに役立ちました。我が校に望まれていた変革を起こすための、素晴らしい土台になったのです。専門的な学習要素は、教師が自分自身、自分の児童、そして学習環境を見る見方を変えてくれます。まさに驚異的な変化が起きたのです。

カレン・ウッドワード博士（サウスカロライナ州レキシントン、レキシントン学区一教育長）

革新的で前向きな変革を実現したいという願望から、我々はリスクを覚悟で「リーダー・イン・ミー」を導入しました。このプロセスにより、子どもたちの人格を強化する、という学校が「思い描く終わり」の意義が高まり、私生活と学力の成長のための適切な環境が彼らにもたらされます。一人ひとりの子どもの価値を大切にすることで、それぞれが個性を伸ばし、自信を深め、シナジーを創り出し、世の中をより良くしたいという気持ちを強く持つのです。

マーサ・リンコン（コロンビア、ボゴタ、バッキンガム・スクール理事）

親たちからの言葉

私の九年生の息子が、宿題をほったらかしてテレビゲームをしたいなんて言い出すと、幼稚園に通っている子どもが、「最優先事項を優先して、宿題をやらなきゃだめ！」って甲高い声で兄に注意するんです。

エリッカ・ポラッツァ（ハワイ州パールシティー、レフーア小学校保護者）